

日上山城と小瀬甫庵①

―日上山小瀬氏の系譜―

香々美川を北上し、寺和田の目下集落から対岸を臨むと、香々美川の方へ長く張り出した尾根が目に入ります。

これは「日上山城」（町指定重要文化財）という中世の山城の跡です。（写真1）

戦国時代までのお城は戦のための軍事拠点として築造されたもので、たいていは丘陵を削ったり土を盛ったりして作った、実用的ではありませんが、岡山城や姫路城などの近世の城と比較すると簡素な構造に



写真1 日上山城跡

なっています。

日上山城は、尾根の最も高い場所に主郭を置き、尾根の東側谷筋が大手（城の入口）で、主郭の前後に兵を配置する曲輪や敵の侵入を防ぐ堀切を構え、堅堀や土塁なども備えた山城です。築城時期は定かではありませんが、代々小瀬氏の守る城であったと言われています。

小瀬氏がいつ頃から日上山を本拠にしたのかは定かではありませんが、室町幕府で要職を務め、美作国の守護に任ぜられていた時期もある赤松家の記録をまとめた『赤松家風条々録』（十五世紀前半頃成立か）では、赤松家の御一家衆・御一族衆に次ぐ年寄衆のうちに小瀬氏が挙げられており、赤松家家臣団の中では高い地位にあったことがわかります。『備前文明乱記』（永禄元年（一五五八）刊）という書物の中では、文明十五年（一四八三）に備前福岡の合戦に小瀬弾正忠という人物が赤松方として出陣したとありますが、この小瀬弾正忠は日上山の小瀬氏の一族であったと思われる。

『作陽誌』（元禄四年（一六九二）編纂）には日上山城は「小瀬勘兵衛なる者ここに住む」とあります。真経の香々美北神社のある尾根に残る相坂城跡も勘兵衛の旧跡であったようです。（写真2）この小瀬勘兵衛という人物については詳しくはわかりませんが、前述の弾正忠につながる人物であると推定され、勘兵衛の時代、おそらく十六世紀の前半頃には確実に小瀬氏が日上山城を本拠にしていたものと思われます。また、古文書によると勘兵衛の後継である小瀬中務正秀正の代には、山陰の大名・尼子氏に愁訴したり、備前の大名・宇喜多氏に臣従したりしていることがわかり、群雄割拠の狭間で一族の存続のために奔走していたことがうかがえます。

この日上山城を対岸から臨む場所



写真2 相坂城跡

に「小瀬甫庵翁碑」という石碑があります。（写真3）



写真3 小瀬甫庵の碑

小瀬甫庵という人物は、江戸時代の始めに『太閤記』、『信長記』等を刊行した儒学者として有名な人物ですが、江戸時代の十八世紀後半頃に書かれた『備前軍記』『美作古城記』等の書物には、中務正秀正が甫庵と名を改め、諸国を遊歴したとされています。

しかし、日上山城の小瀬氏と甫庵の関係、また秀正と甫庵が同一人物であるかどうかについては不明な部分もあり、多くの史料から多角的に検証していく必要があります。

参考資料：『鏡野町の文化財』、『鏡野町史』通史編、史料編、『上郡町史』第2巻、『小瀬甫庵』、『作陽誌』

お問い合わせ先

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733